

## 第2回運転責任者諮問委員会 議事要旨

- 1 日 時 平成20年5月26日(月) 15時00分 ~ 16時50分
- 2 場 所 日本原子力技術協会 特別会議室
- 3 議 題
  - (1) 理事長挨拶
  - (2) 前回議事録確認
  - (3) 運転責任者判定システム図の修正について
  - (4) 運転責任者諮問委員会 規約について
  - (5) 運転責任者判定に係る苦情等の処理について
  - (6) 判定機関に対する要求事項(独立性、公平性、公正性に関するもの)への対応状況について
- 4 出席者(敬称略、順不同)  
(委員) 木村委員長、山之内委員、森本委員  
(原技協) 石川最高顧問、藤江理事長、鈴木専務理事、成瀬理事部長  
(事務局) 阿部、米津、浦野 他

### 5 議事概要

#### 【決定事項】

- 議題(3)の運転責任者判定システム概要図の修正内容について了承された。  
議題(4)の委員会規約の前回コメント反映分について承認され、委員会規約は本日付で改定された。  
議題(5)の苦情等の処理の公表の考え方について、了承された。  
議題(6)の判定機関に対する要求事項への対応状況について、了承された。  
⑤委員によるシミュレータ訓練施設の視察について、別途計画することとした。

#### 【主要議事】

- (1) 理事長挨拶  
3月25日付で理事長が交代し、4月1日付けで技術者の育成・維持のための組織(技術基盤部)を部として立ち上げた。  
第1回諮問委員会には顧問として参加したが、委員の方々には、的確なご意見を頂けるものと確信した。
- (2) 前回議事録の確認  
事務局より、第1回諮問委員会での主な内容を説明した。
- (3) 運転責任者判定システム図の修正について  
事務局より、運転責任者判定制度等の概要と前回コメント(運転責任者判定システムの概要説明図がわかりにくい)に対する反映内容を説明した。  
②以下のご意見をいただいた。
  - 1) 運転責任者は、産業界においてある職務を行うための資格であるので、試験問題バンクの公表は特に問題なく、また、学習する側にとっても有益である。
  - 2) 修正した運転責任者判定システムの概要説明図について、了承する。
- (4) 運転責任者諮問委員会 規約について  
事務局より、以下の前回コメントの反映内容を説明した。

- 1)委員構成の具体的な基準に、委員に適した資質として“技術的実務経験を有する者”を追記した。
  - 2)諮問委員会の開催については、開催頻度（原則として年1回）のみの標記とした。
- ②以上のコメント反映内容が了承され、委員会規約は本日付で改定された。

#### **（５）運転責任者判定に係る苦情等の処理について**

事務局より、前回の課題（苦情処理の公表の考え方及び対象を整理すること）に関する説明を行った。  
以下のご意見・ご発言をいただいた。

- 1)国家試験では、“異議申立て”を受け付けるといったプロセスはないが、運転責任者判定では、透明性の観点から必要である。
- 2)異議申立て内容等の公表に際し事前に申立て者の了解を得るプロセスとしている点について、事前了解は不要とのご意見もあったが、判定制度開始に当たっては、意見を出しやすい環境を整えることも重要であり、事務局提案のプロセスで運用することが了承された。

#### **（６）判定機関に対する要求事項（独立性、公平性、公正性に関するもの）への対応状況について**

事務局より、原技協のJ E A C 4 8 0 4 要求事項への対応状況を説明した。  
以下のご意見・ご発言をいただいた。

- 1)諮問委員会の確認に際しては、個々の細かいことについて、重箱の隅をつつくような議論をしても意味はない。
- 2)シミュレータ操作が上手くても実務がよくできるとは限らない。とっさの判断はシミュレータ訓練では出てこない。人的な部分も重要である。J R では実機を用いた試験もあり、認定の最終判断に現場長を入れている。
- 3)航空業界では、むしろ実機がシミュレータに近づいてきている。シミュレータでは実機でできない訓練が可能である。
- 4)筆記試験問題は、例えば1,800問程度を作成し、当直長経験者に、難易度や適切性をチェックしてもらい、問題数を1,200問程度に絞って維持してゆく方法もある。

#### **（７）その他**

第3回諮問委員会を10月に開催することとし、開催の2ヶ月程度前に日程調整を行うこととした。

- ②委員によるシミュレータ訓練施設の視察について、別途計画することとした。

以 上